

二〇二五年度

一般入試② 問題（国語）

注意書き

- ・試験開始の合図があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- ・解答用紙二枚のみ集めます。問題冊子は持ち帰ってかまいません。
- ・この冊子には問題が一ページから二ページまであります。万一、足りない部分があったり印刷が見にくかったりする場合は、手を挙げて試験監督に知らせること。
- ・解答はすべて解答用紙の枠わくの中に記入し、用紙には、関係のない文字・記号類を書いてはいけません。
- ・字数指定のある問いは、句読点なども字数にふくめること。
- ・解答用紙を集め終わっても、試験監督の指示があるまでは席を立たないこと。

一、次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

絵を描くのが大好きで画家になることを夢見るマコ（海老原麻子）は、芸術家で屋根の上に巨大な足形の鉄のオブジェをのせた風変わりな家に住むオッサン（吉本太）のもとに、仲良しのユウ（成田夕夏）と絵を習いに通っている。五年生になり、給食委員になったマコたちは、その初顔合わせの日に担当の小野先生の指示で、グループに分かれて話し合いをすることになった。

「先生、俺（おれ）こいつと一緒（いっしょ）のグループはいやです」

西岡修（おさむ）はマコを指さして大きな声を出した。みんないつせいにマコを見た。六年生の西岡修とは話をしたことはないが、去年の運動会（おうえんたいん）で応援団（おうえんだん）をしていて、まわりの女子がイケメンがいると、わざわざそばまで見に行つてキヤーキヤー騒（さわ）いでいたので、なんとなく顔は覚えていた。

小野先生がなにか言おうとしたけれど、その前に西岡修はこう続けた。

「俺、おまえのこと知ってるぞ。毎週日曜日になると屋根に変なでっかい足がのった家に通ってるだろ。あいつ、成田夕夏も一緒に歩いてるの見たぞ！ おまえはともかく成田夕夏はもつとまともなヤツかと思つてたけど、おまえらやっぱ変わりもんだな」

マコがユウを見ると、ユウはすでにまっすぐ立つて西岡修をすごい形相でにらみつけていた。

ユウは、こういう時言いたいことを言葉にせずじつと黙（だま）っている子どもだ。決して涙（なみだ）も見せない。

修はその目線には気づかないのか、トーン（トーン）¹をあげて話し続けた。

「俺のお母さんが言つてたけど、あそこにいるおじさんは頭がおかしいから絶対近づくなつて。おまえの親もよくもあんなところに平気で子どもを行かせて、どうかしているつてさ。あのおじさんの息子は俺の兄（むすこ）ちゃんと同じ高校出身だけど、暴走族に入つていて何度も警察に捕（つか）まつてたつて今でも有名ならしいぞ。親が親だから子ども子どもなんだつて。しかもあのおじさん、ボロ小屋に住んでいつも汚（きたな）い服着て変な目つきして土手を歩いてるだろ。おまえらみたいな変人ジジイの間と机くつつけるの俺、絶対いやだから！」

マコの心臓は今まで聞いたことのなくらい大きな音で鳴り出した。全身のすべての血液が顔のあたりに一瞬（いっしゆん）で集まつてくるのが、自分でもわかった。

それから先のことはあまり覚えていない。

（中略）

ママが学校に着いた時は、担任の清水先生と小野先生、西岡修とその母親が五年一組の教室にいた。マコもその輪の中にポツリと座（すわ）っている。

とうに下校時間を過ぎていたので、他の子どもたちは誰もいなかった。マコの隣（となり）に用意された椅子（いす）にママが座った。

ママは修のおでこのばんそうこうに目をやった後、マコをじつと見つめた。

それから姿勢を正すと「いったい何があつたのでしょうか」と静かな口調でたずねた。

「聞きたいのはこっちのほうよ！ 修のおでこの傷！ おたくの子がやったんですつてね。しかもペンケースをうばつて窓から投げたなんて！ 変わつてるおじさんだと聞いてはいたけど、女の子のくせに暴力振（ふ）るうなんて。いったいお家でどういうしつけをしてるのかしら!? 先生もいたところで起こつたつていうじゃないですか。だから若い先生は困るのよ。ちゃんと見ていてもらわないと！」

²修のお母さんが声を荒（あら）らげて机をバンバンたたきながらまくしたてていると、隣にいた修がおでこを押（お）さえながらまたシクシク泣きべそをかきだした。もう片方の手で、へこんで形が変わってしまったミッキーマウスのペンケースをひざの上で握（にぎ）りしめている。

「痛かったよね、怖（こわ）かったね、もうお母さん来たから大丈夫だからね」

息子の頭をなでながら、修の母親はママをにらみつけた。

ママは一回呼吸を大きくした。

「そうでしたか。うちの娘（むすめ）が大切な息子さんにケガをさせてしまい本当に申し訳ありませんでした。今後絶対にないよう家に厳しく言つて聞かせます。ペンケースも弁償（べんしょう）させてください」
それから深々と頭を下げた。

マコは西岡くんを引っかいたのも、ペンケースを窓から校庭に投げたのも私だから、にらむのもどなるのもママじゃなくて私にしてほしい、それに、西岡修が先に私を仲間はずれにして傷つけたんだ。そう思ったとたん、横から伸びてきたママの手に頭を後ろからグイッと押されて、マコも頭を下げる格好になった。

「マコ、修くんになんて言うの!？」

ママの厳しい口調よりも、³頭を押すママの手の力が思ったよりも強いことに、マコは少なからずショックを受けた。

「西岡くん、ごめんなさい」

こんなにくやしくて、私だって言いたいことがあふれるぐらいあるのに、マコはなんとかこの言葉を選んでそれだけを口にした。

西岡修はまだメソメソしながら赤ちゃんみたいに、うん、とうなずいた。

修の母親はほんの少し口角をあげて首を伸ばして、ママを上から見下ろした。

「二度と、このようなことがないようにお願いしますね。それから、よそのおたくの教育方針に口出すつもりはないけど、土手沿いの美術教室の吉本さんって方、近所の有名な要注意人物だってことはご存じですよ。朝から酒臭いにおいさせてふらふらしたり、河原で女子高生をじっと見つめていたりするってうわさを知らないの？ あんなどころに通わせるなんておやめになったほうがいいんじゃないかしら。芸術家だっていうけれど、意味不明な置物ばかり庭に置いて、藝大出だっていうのも本当なんだかどうか。おたくのお嬢さん^{じょうさん}もこうしてすでに悪い影響^{えいきょう}を受けてるようですよ。ねえ」

ママは長いまばたきを一回した。⁴それから「はい。ご心配くださってありがとうございます」とだけ答えると、もう一度深呼吸をした。

修の母親は今度は体を清水先生と小野先生に向けると、また机をたたき始めた。

「で、学校としては、どうしてくれるんですか!? こんな暴力を平気で許しているようなら、今後の対応を考えなくてはいいけないと、主人とも話してきましたから」

「お母様のお気持ちはごもっともです。管理職にも報告して、若い教員の指導をしっかりといたしますので、今回は本当に申し訳ありませんでした」

清水先生も頭を下げた。

小野先生はずっとうつぶんでいる。まだ教員になって二年しか経っていないし、おとなしく、華奢な^{きゃしゃ}体で声も小さいからか、男子にからかわれたりしている姿を廊下^{ろうか}で見かけたこともある。

「で？ 現場にいた当のご本人の小野先生からは何も謝罪がないようですが、ご自分の責任、あなた、わかってんの？」

さらに語気を強めて、修の母親は小野先生に詰め寄った。

マコはやっぱり、これは私がやったことで小野先生のせいでもママのせいでもない、ましてやオッサンのせいでもない。どなるなら私だけにしてくれ、どうしても今ここでそのことを言わなければならない、と覚悟^{かくご}を決めて声に出そうとした。

その時、小野先生が顔をあげた。⁵震えているがいつもより大きな声だった。

「私がしっかりしていないせいで、今回のことを止めることができず本当に申し訳ありませんでした。もったきちんと指導していたらこんなことにはならなかったと思います。麻子さんが修くんを引っかいたことも、ペンケースを外に投げたことも絶対にあつてはならないことです。麻子さんもこうして厳しく注意を受けて反省したと思います。でも麻子さんがどうしてそんなことをしてしまったのか、ちゃんと麻子さんの話も聞いてあげるべきだと思います。だって」

すると今度は小野先生の話の途中^{とちゅう}で、その言葉にかぶせるように清水先生があわてて話し出した。

「とにかく本当に申し訳ありませんでした。その場にいた子どもたちにもヒアリングをして今後このようなことがないように、しっかりホームルームで話し合いをさせますし、修くんの担任はもちろん、管理職にも必ずこの件は伝えます。小野先生も着任して三年目、若さゆえ右も左もわからない状況^{じょうきょう}ですから、どうか今日はお許しください」

それを横で聞いていた小野先生も一緒に頭を下げた。

それから小野先生は、ななめ向かいに座っている修に目をやり、机の上に置かれた修の手に自分の手をそっと重ねた。

⁶「修くん、どうして麻子さんが修くんを引っかいたか、理由、わかるよね？」

小さな声でやさしくたずねた。

修は何も答えずうつむいていた。

話し合いが終わると、もうすでに小学校の正面玄関は閉まっていた。職員室の真向かいにある職員専用の出口をあけて、ママとマコは子どもたちがふだんは使わない黒い鉄の門を抜けた。学校から家までの道はいつもと違う景色に見えた。マコは涙が止まらなかった。

オッサンを変人ジジイだと言われたこと、パパやママの悪口を言われたこと。みんなの前で指をさされて仲間はずれにされたこと。顔がすごく熱くなって自分が自分じゃないみたいになった。ユウを教室に一人残して自分だけ逃げ出した。ママが自分のしたことのせいであんなに深く頭を何度も下げている姿。いつもと違う小野先生の声。西岡修のおでこにじんだ血の赤さ。マコの頭の中をそれらがグルグルと順番に回る。

マコはもともとひょうきんで明るい性格だ。周囲からも無邪気な子どもに見える。でも、マコは学校にいる時、いつもなんとなく、疎外感のような、違和感のような、他の子と違って、ひとりだけみんなから冷たい目で見られているのをほんの少しだけおぼろげに感じていた。でもそんなことは気のせいだろうと思うようにしていた。それが今日、西岡修に言われた一言で、不安に思っていたことが、マコの中ではっきりと現実になった。私はみんなから疎外されている。それは私が変な子だからなんだ。でも他の子と比べて何が違って、どこが変なのか、いくら考えてもわからなかった。自分の思う「普通」と他の人の思う「普通」が異なることが悲しい、と思った。

「私、仲間はずれにされたんだよ。オッサンのことも変人ジジイだってバカにされたんだもん。どうしてあやまらなければならなかったの？　なんで、ママまであやまつたりするの？」

マコは目に涙をいっばいためて、しゃくりあげながらママの横顔を見上げた。

ママは歩みを止めると、しゃがんでマコの肩に手をかけた。

「あのね。マコ。理不尽だと思うことがあった時、暴力ではなくて別の方法で相手に向き合ってほしいの。それから、人はあやまりたくなくても、たとえどんな理由があったとしても自分がやってしまったことに対して向き合ってちゃんとあやまらなくてはいけない時もあるのよ」

ママはマコの汗ばんだおでこにはりついた前髪をかきあげながら話を続けた。ママはマコに大切な話をする時にたいていそうする。だからマコも一言も逃さないように聞く。

「私が西岡くんにケガをさせちゃったから、それは悪いことだと思う」

「そうね。どんな理由があっても暴力で相手を傷つけることはしないでほしいとママは思う」

「じゃあ、そうではない別の方法って、どうすればいいの？」

ママは少し考えてこう答えた。

「それは言葉かもしれないし、マコの大好きなお絵描きかもしれない。そう、マコにはお絵描きがあるじゃない！　マコがどうしても悲しくていやな気持ちになったのか、ちゃんと西岡くんやみんなに暴力以外の方法で伝えることができたなら、きっと今、マコもこんなに傷ついていないかもしれない」

「そうかもしれないけれど、でも、私、指をさされて向こうへ行けって言われた時、とてもつらくて悲しくて、顔が熱くなって体が勝手に動いちゃったの。教室にいるお友だちがみんな怖い人に見えたの。もうこんな怖い思いは二度としたくないよ」

この気持ちを、言葉やお絵描きで説明したりするなんてできそうにないと、マコは思う。できそうにないけど、そうできたらいいな、とも思う。西岡くんを引っかけてうれしい気持ちになるって言ってたでしょう？　それに、先生に初めて出会ったかった。それどころか西岡くんのおでこにじむ赤い血を見た時、疎外感を上塗りするように、さらにマコの心は傷ついたのだ。

ママはマコのその気持ちを察したようにやさしく笑って、マコの体を両手で引き寄せた。

「マコは吉本先生の彫刻を見て楽しくてうれしい気持ちになるって言ってたでしょう？　それに、先生に初めて出会った時、怖そうだし変な人って思ったけど、作品を見たらいっぺんに大好きになったんでしょ？　西岡くんにもそのすてきさを教えてあげなくっちゃ。きっと西岡くんは知らないからそんなふうに言うのかもよ」

マコは西岡修や学校みんなが吉本太美術教室にやってきて、オッサンの彫刻や絵を見て目をまんまるくする姿を想像した。私の好きなものをみんなも好きになったら、どんなにうれしいだろう。もしかしたら西岡くんとも仲良くできるのかな。「マコがきれいだな、好きだな、と思うものを見つけたらみんなにも教えてあげようよ。もしも一所懸命に伝えてみて、どうしてもわかってもらえなかったとしても、それでも人を傷つけてはいけません。伝えること、表現することをあきらめな

いでほしいの。マコはそれができる子だと思うから」

ママはマコの目の奥をじっと見つめて、マコの手を握る。

「それからマコは変な子じゃない。ユニークって言葉知ってる？ 『唯一無二の特別な存在』って意味なのよ。マコは変な

子じゃなくてユニークな子だとママは思うよ」

「そうかな、私はユニークな子なのかな」

「そうよ。マコはユニークな子。マコにしかないユニークさを大事にしないとね」

「わかった。私、何があってもボウリヨクはしない。ママも悲しむし、私も悲しいから。あとは、言葉でとか、お絵描きでとか、うーん、どうしていいかわからないけど。でも私、仲間はズレにされたり、いやな気持ちになった時、それをちゃんと伝えたいと思った」

マコはうなずいた。全部を理解できたわけではないし、納得できたわけでもない。けれどヒョウゲンをあきらめない、と思った。

ミドリ公園の角を曲がる頃、口をぎゅっと閉じて、目をつぶって、それからマコは泣きやんだ。

（蟹江杏『あの空の色がほしい』）

問一——線部1「トーンをあげて話し続けた」とあるが、これは西岡修のどのような様子を表したもののか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア マコやユウが変わりものであることを大声で話すことで、まわりにいる生徒たちの同意を得ようと話し続ける様子。

イ マコもユウも反論して来ず、止める者もない中、さらにマコたちを見下すように調子に乗って話し続ける様子。

ウ マコやユウが自分に反発して言い返そうとしている気配を感じ、反論を許さないように威圧的に話し続ける様子。

エ 華奢で声も小さい小野先生がマコやユウをかばおうとしても口をはさめないようにと、大きな声で話し続ける様子。

問二——線部2「修のお母さんが声を荒らげて机をバンバンたたきながらまくしたてている」とあるが、ここには修の母親のどのような態度が表れているか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 相手のあやまりを指摘し、反論のすきを与えずに次々と理屈を並べたてて非難することによって、相手を徹底的に追いつめようとしている。

イ 自分の息子にも非はあったと内心ではわかっていながら、相手を威圧的、攻撃的に非難することで自分たちの弱みを見せまいとしている。

ウ 息子がけがをさせられたことでひどく取り乱し、誰に何を言ったらよいのかもわからず、ただただ意味のないことをわめき散らしている。

エ 自分の息子はまちがいなく被害者で、悪いのはすべて相手の方であると決めつけ、そのいきどおりを一方的に相手にぶつけようとしている。

問三——線部3「頭を押すママの手の力が思ったよりも強いことに、マコは少なからずショックを受けた」とあるが、それはなぜか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 自分をかばってくれると信じていたママが、むしろ修の味方になり自分を強く非難してきたことで、急に裏切られたような気がしたから。

イ 先に仲間はズレにしてきた修が悪く自分に非はないのに、被害者の自分に謝るよう強制をするママの仕打ちをひどく理不尽に思ったから。

ウ 修にひどいことをされた自分の思いを汲んでくれることなく、ママが問答無用で謝罪をさせようとしているとはつきり感じられたから。

エ 自分のせいで修の母親に頭を下げているママが、心の中で自分以上にぐやしい思いをさせられていることがひしひしと伝わってきたから。

問四 ― 線部 4 「長いまばたきを一回した」とあるが、この時のママの心情はどのようなものか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 修の母親が吉本先生を根拠もなく中傷し、マコの暴力も吉本先生の影響だと言ったことに心中おだやかでなかったが、受け入れがたくても冷静に対応しなければならぬと考えている。

イ 修の母親が明かした吉本先生に関する悪い噂を知って驚き、信じられない気持ちでいるが、教えてくれたことへの感謝だけは慎重に言葉を選んで伝えようと思っている。

ウ 修の母親から立て続けに吉本先生やマコのことを侮辱され、今はその内容を受け止めるのに精一杯で、とっさに反論や二人をかばう言葉を見つけることができずにとまどっている。

エ 修の母親が吉本先生についてあまりにも差別的なことを言うのであきれてしまったが、きちんと大人としての礼儀を守って話し合いをしなければならぬと思い、気を取り直している。

問五 ― 線部 5 「震えているがいつもより大きな声だった」とあるが、この時の小野先生の心情はどのようなものか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 高圧的な態度の修の母にひるむことなく、子供のマコが自分の思いをきちんと口にしようとしているのを見て情けなくなり、教師である自分こそこの場で言うべきことを言わなければならないと覚悟を固めている。

イ 修がケガをする事態になるのを止められなかった自分の力不足を申し訳なく思いつつも、現場を見ていた大人として、マコが一方的に悪者にされている今の状況をこのまま見過ごしてはなるまいと強く思っている。

ウ 自分への非難はすべて甘んじて受けるつもりでいるが、マコよりひどいことをした修が少しも責められず謝罪もしていないのは間違っていると思い、こちらの言うことにも耳を傾けてほしいと必死になっている。

エ 息子がケガをしたことにかこつけて誰かれ構わず言いたい放題に批判する修の母のふるまいに怒りを覚え、自分の失態を棚に上げてでもなんとかマコのことだけは弁護をして、一矢報いてやろうと息まいている。

問六 ― 線部 6 「修くん、どうして麻子さんが修くんを引っかいたか、理由、わかるよね？」とあるが、この発言にこめられた小野先生の気持ちはどのようなものか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア トラブルの原因を作ったのは自分なのだという事実を修が素直に認め、みんなの前で勇気をもってマコにあやまってほしいという気持ち。

イ 隠していることを母親の前で修が正直に話し、実際の状況を知らないまま怒っている母親の勘違いを正してほしいという気持ち。

ウ 他人を見下す言動で多くの人に迷惑をかけてしまったことに修が早く気づき、周囲にもっと配慮できるようにってほしいという気持ち。

エ 自分の心ない発言がマコを傷つけたのだということを修がきちんと受け止め、マコの気持ちを思いやって反省してほしいという気持ち。

問七 ― 線部 7 「学校から家までの道はいつもと違う景色に見えた」とあるが、どのようなことがあってそう見えたのか。次の中から適当でないもの一つを選び、記号で答えなさい。

ア 修に自分やユウのことを変わりものと決めつけられ、みんなの前で仲間はずれにされたことで深く傷ついたこと。

イ マコの大好きな吉本先生のことを、先生をよく知りもしない修に変人ジジイあつかいされたのがくやしかったこと。

ウ 修の発言にかつとなって暴力をふるったり、ひとりで教室を飛び出したりするほど、自分を見失ってしまったこと。

エ ママが何度も頭を下げなければならず、そのことで自分がママから見放されたかと思うと、ひどくつらかったこと。

問八 ― 線部 8 「自分の思う『普通』と他の人の思う『普通』が異なることが悲しい、と思った」とあるが、この時のマコについて説明したものとして最も適当なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 仲間はずれは人をいやな気持ちにさせるので、当然やってはいけないことだと思っていたのに、周りのみんなが平然と自分を仲間はずれにできたことにショックを受け、落ち込んでしまっている。

イ オッサンが好きで絵を習いに行くことも普段の言動も、自分はただ心に正直に過ごしているだけなのに、なぜそれだけで自分は周りに避けられ孤立こりつしてしまうのか見当もつかず、途方にくれている。

ウ ひょうきんで明るい性格は、普通は人から好意的に受け止められるものと思い込んでいたが、自分は周囲から冷めた目で見られており、疎外そがいされていたという事実に打ちひしがれ孤独を感じている。

エ 他のみんなと同じように、自分もオッサンも好きなことに打ち込んでいるだけなのだが、変な絵を描くという理由で周囲から変人あつかいされたという事実にやりきれない理不尽さを感じている。

問九 ― 線部 9 「しゃがんでマコの肩に手をかけた」・10 「マコの汗ばんだおでこにはりついた前髪をかきあげながら話を続けた」とあるが、このようなママの話し方にはマコに対するどのような気持ちが表れているか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア マコの聞き分けのなさにいらだち、自分の方に非はなくてもあやまらなければならないこともあることを教え、我慢がまんすることの大切さをわからせようとしている。

イ 幼いマコには今はまだわからないことがあっても仕方がないと考え、それを責めたり叱しかったりせず、やがてわかる時が来ると信じてやさしくなだめようとしている。

ウ 頭ごなしに叱ったり、母親としての自分の考えを上から押しつけたりするのではなく、マコが自分でちゃんと考えて理解し、納得できるように話そうとしている。

エ マコの悲しみやくやしさには寄り添そいながら、それでも自分の間違いは認め、絶対に同じ間違いをくり返してはならないということを厳しく教えようとしている。

問十 ― 線部 11 「できそうにないけど、そうできたらいいな、とも思う」とあるが、それはなぜか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 暴力では何も解決できなかったばかりか、より自分が傷つく結果になってしまったので、それよりも自分の好きなもので人に気持ちを伝える努力をしていきたいと思えたから。

イ 暴力でやり返すと、自分が一方的に悪者にされて理不尽な思いをするので、それよりもきちんと言葉で相手がやったことを説明し、自分の正当性をみんなに認めさせたいから。

ウ 暴力で訴えうたかけても、相手には何も伝わらずお互いたがが傷つくだけだとわかったので、大好きなお絵描きという手段によって、誰も傷つけることのない表現をしたいと思ったから。

エ 暴力で応えこたるとそのときはすっきりするが、後から自己嫌悪けんおで落ち込んでしまうので、いやな思いはすべて絵にぶつけることで発散して、表に出さずに済ませようと思ったから。

問十一 ― 線部 12 「ヒョウゲンをあきらめない」とあるが、このような決意はマコのどのような思いから生じたものか。解答こたらの書き出しに続けて、八〇字以上、一〇〇字以内で答えなさい。ただし、次の二語を必ず使うこと。

疎外感・ユニーク

二、次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「商品」とはなにか。そして「作品」とはなにか。私の結論をさきにします。

「商品」とは、「あったらいいな」の世界である。

「作品」とは、「ありえへん」の世界である。

私たちが日々のくらしのなかで、「こういうものがあつたらたのしいな、便利だな」といろいろと、ないものねだりのリクエストをしておりますと、このいわゆる消費者ニーズ、私たちの「あったらいいな」のねがいにきちんとこたえてくれる「品物＝商品」が製造され販売される。単純化すれば以上のような流通のケイロ^aがつくられていくことが「商品」の理想型、つまり「良い商品」「健全な商品」のありかたなのではないでしょうか。

売る側と買う側に共通の「欲望」、あるいは「夢」が「あったらいいな」なのであり、この「あったらいいな」の具現化が「商品」となる。すべてのはじまりには「あったらいいな」があるんですね。ですから生産者や売り手がかつてに「これだ！」「これがいい！」ときめこんで売りだしたとしても、結局は倉庫に在庫をかかえてしまうことになる。うごかない「商品」は、「商品」としては失格だといわれても反論の余地はないのではありません。

「作品」のほうはどうでしょうか。19世紀のオランダの画家、フィンセント・ファン・ゴッホ（1853～1890）。この画家は37年のみじかい生涯に、油絵860点、水彩画150点、素描1030点と、膨大な数の作品を残しました。しかし生前に売却されたのは、『赤い葡萄酒』（1888年）というバネンの一作だけでした。ゴッホの絵画を「商品」としてとらえるなら、売れない絵画は「商品」として確実に失格です。いくらゴッホが「これだ！」と確信しても、消費者ニーズにマッチしないのであれば、もうしわけないけれど、売れないのも当然というほかありません。当時のたいいの人びとにとって、あらっぱい筆致で描かれた奇抜な色彩の人間の顔や風景は、「自分の部屋にこんなのが一枚あつたらいいな」ではなく、「なんでこんな絵を描くのだろう」と拒否反応を呼びおこしてしまう「ありえへん」世界だった。

私たちは夜空をみあげて、「キレイだなあ」などとありきたりな表現で終わらせようとしてしまいます。ところがゴッホはちがつていた。ゴッホには名状しがたい不定形な生命体が夜空にうずまきさまがありありとみえていた。その幻視が『星月夜』（1889年）をはじめとするさまざまなゴッホ作品にあらわれている。ゴッホにはみえていたけれど、当時の人びとにはみえなかったし、みようともしなかった、そんな「ありえへん夜空」が「作品」となる（図1）。

しかしいまではゴッホ展が開催されると、美術館は行列のできる店みたいになる。かつての「ありえへん」が「あったらいいな」に化けてしまった。私たちはいまごろになって、やっとゴッホの「ありえへん」に追いついてきたということなのでしょう。

「商品」と「作品」の関係を考察するにあたり、もうひとつつのキーワードをとりあげてみます。なにかというと「エンターテインメント」です。

「エンターテインメント」、俗にいう「エンタメ」。ウィキペディアによれば、「エンターテインメントは、人々を楽しませる娯楽」とあります。

「エンタメ」の世界、私はけっしてきらいじゃありません。ハクジョウしますが年末にテレビで生中継される『M-1グランプリ』、毎年たのしみにしています。事前に出場者たちの研究をしたりしています。

「エンターテインメント」について、私のある知人がつぎのようにティギしています。

エンターテインメントとは、あらかじめわかっていることの再確認である。

わかったようでわからない説明です。私も一瞬とまどいましたが、しだいになるほどと納得できるようになりました。ディズニースタジオでもUSJでも、あるいはだれかのライブコンサートでもいいのですが、エンタメ的な催しに行くことになったとします。そのとき私たちは、そこにいけばこんなキャラクターやアイドルに出会えるぞとか、こんなスリリング

な体験が ажわえるぞとか、そういう期待感（＝あらかじめわかっていること）で、まずはムネをふくらませます。そして当地を訪れて、期待どおりのじゅうぶんなサービスが提供されたとき（＝再確認）、私たちは充足感にひたれます。エンタメ体験は、おもしろいと事前にわかっているところに行くからおもしろいのだというわけですね。

ところがエンタメ会場から美術館へ移動したとしましょうか。

3 ここではどうも気持ちをきりかえる必要があるようです。というのも、あたりまえの話ですが美術館には「作品」しか並んでいないからです。すくなくとも展示室では「商品」は売っていません。そして「作品」とは、これまでお話ししてきたように「ありえへん」の世界です。「あつたらしいな」を期待しても、美術館では出会えません。

もちろんあなたのおメガネにかなう「あつたらしいな」としての「作品」をみつけることもできない。でも、おメガネばかり期待していたら、美術館にはガツカリさせられることがおおいのです。

正直にもうします。私は美術という分野で何十年と活動してきましたが、この私自身も美術館では「よくわからんなあ」と首をかしげることがフツウです。

こういつては失礼かもしれませんが、美術館にいられている観客のみなさんも、たいていは館内で「よくわからん」ととまどっておられるはずです。美術館で腕組みをし、真剣なまなざしで絵を鑑賞なさっている方によく出会います。そんなとき私はいつもこう考えるのです。

「ああ、このひとと絵のことがよくわからないのだなあ」と。

人間というものは、こまったときには腕ぐみをする。そしてだまります。わからないというそぶりをみせたくないので、真剣な顔つきになっているだけです。

4 ですから心配する必要はまったくありません。美術館で腕ぐみをしているひとをみつけたら、「ああ、このひと自分とおなじように、よくわからないんだなあ」と安心すればいいだけです。

意地悪な見方をしてしまいましたが、だれかを揶揄したいわけではありません。

そうではなく美術館とは、「あらかじめわかっていることを再確認する」場所ではなく、「こんなこと、ありえへん」とい

う「わからなさ」が常態であるということがいいたただけなのです。

20世紀の芸術表現のありかたをぬりかえたとさえいわれる、マルセル・デュシャン作、『泉』（1917年）という作品があります（図2）。

作品ともうしましたが、ごらんのように単なる男性用便器です。デュシャンがつくったわけではありません。工場で製造された工業製品です（くわしくいうなら、いま私たちが目にする『泉』作品は、工業製品のそのまたレプリカなのですが）。工業製品なら、それはどう考えても「商品」です。ところがこの「商品」が美術館の台座におかれ、これはマルセル・デュシャンの『泉』だとキャプションがついたとたん、「作品」となる。

5 こういう現象は、だれにとっても「わかっていることの再確認」でもなければ、「あつたらしいな」の世界でもありません。「なんでこんなヘンテコなものがここにあるのか、わからない」、つまり「ありえへん」世界のテンケイだといってもいいでしょう。

このような「ありえへん」事態に遭遇したとき、「わからない」から自分には無関係だとして、その場からすぐにはなれていくケースがほとんどかもしれません。しかし「なんだこれは、よくわからんな」と感じたあと、「それにしてもどうして、こんなありえへんものが、ここにあるんだろうか」とたちどまり、わからないから余計に気になって、もつとながめてみたくなる、そういうケースもないではない。そしてここまできたらそれはもう、あなたと芸術とのあいだに信頼関係がで

6 きつつある証拠です。

「エンタメ」とは期待どおりのサービスの提供であり、すわっていれば、さっとお氣にいりをお膳立てしてくれるという、いたれりつくせりのおもてなしの世界です。芸術のばあいはそのではない。すわって待っているだけではなにもおこりません。

7 芸術は不親切きわまりないスフィックス。スフィックスからの謎かけに、こちらからまえのめりになってつきあわなければ答えは得られないし、さきにもすすめない。このスフィックスの「わからなさ」にむきあってみるのが「おもしろさ」

（森村泰昌『生き延びるために芸術は必要か』）

⑧ 擲楯：皮肉を言ってからかうこと。

スフィンクス：ギリシャ神話に登場する怪物。^{かいぶつ}山で旅人をとらえては謎を出した。



図1 フィンセント・ファン・ゴッホ 『星月夜』 1889年



図2 マルセル・デュシャン 『泉』 1917年／1964年
© Association Marcel Duchamp / ADAGP, Paris & JASPAR, Tokyo, 2024 G3438

問一 〜〜線部 a f のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 ―線部 1『良い商品』『健全な商品』のありかた」とは、どのようなものか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア とてもできそうにない夢のような「あったらいいな」が、現実形あるものとして生産されたもの。

イ 生産者の工夫と努力によって、消費者にとって使いやすい理想の商品として製造され販売されたもの。

ウ 「あったらいいな」という消費者の願いに生産者や売り手がこたえる形で製造され販売されたもの。

エ 消費者がこれなら買いたいと思うような性能と価格のバランスがとれた商品として生産されたもの。

問三 ―線部 2「やっとゴッホの『ありえへん』に追いついてきた」とあるが、どのようなことか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 多くの消費者がゴッホの絵を自分の部屋にあったらいいなと思うようになり、市場で高値をつけるようになったということ。

イ 現代ではゴッホと同じ物の見方ができる鑑賞者が増え、多数の人がゴッホの作品の価値を理解できるようになったということ。

ウ 人々が作品を見慣れるにつれてゴッホが幻視した風景への拒否反応がうすれ、皆がキレイだなあと思えるようになったということ。

エ ゴッホの奇抜な色彩や独創的な表現による作品を、長い時間を経るうちに多くの人々が見たいと求めるようになったということ。

問四 ― 線部 3 「ここではどうも気持ちをさりかえる必要があるようです」とあるが、それはなぜか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 自分の期待どおりの感動を得られるような場所だと思っていると、予想を裏切られて失望するから。
イ すばらしいと評判の美術品を見に行っても、事前の期待を超^こえることはなかなかなく落胆^{らくたん}するから。
ウ 作品を深く理解したいと思って出かけていっても、期待していたほどには理解できずにとまどうから。
エ 事前に作品について研究していくと、かえって期待どおりの感動が得られず物足りなさを感じるから。

問五 ― 線部 4 「心配する必要はまったくありません」とあるが、ここでいう「心配」とはどのようなものか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 美術館で腕組みをして絵を見てみると、絵の良さがわからないのではないかと思われる心配。
イ この美術館で、展示されている絵の良さがわからないのは自分だけではないかという心配。
ウ 筆者が、自分のことを絵の良さがわからない人として揶揄^{げう}しているのではないかという心配。
エ 自分も絵の良さがわからない大勢の人の一人だと思われてしまうのではないかという心配。

問六 ― 線部 5 「こういう現象」とあるが、どのようなものか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 誰もが知っているような製品でも、一つの作品という説明をつけて示されると、いかにも高い価値をもっているかのような存在になるというもの。
イ 一般的^{いっぱんてき}にあまり良い印象を持たれていないものでも、落ち着いた場所で立派に展示されると、じっくり鑑賞^{かんしょう}してみたくなるような存在になるというもの。
ウ 単なる工業製品のレプリカが、サインを添えられて芸術作品だと言われると、作家が作ったものだ^{さつかく}と錯覚^{さくかく}させられるような存在になるというもの。
エ 用途の定まった実用品が、本来あるべき場所から切りはなされて美術品としてあつかわれると、見る人に不可解な印象を与える存在になるというもの。

問七 ― 線部 6 「あなたと芸術とのあいだに信頼関係ができつつある」とあるが、「芸術とのあいだに信頼関係ができ」とはどのようなことか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 自分には理解することのできない奇抜な作品と出会っても、そもそも芸術とは「わからない」のが当たり前なのだから、何も問題はないのだという安心感を抱けるようになること。
イ ヘンテコで意味不明だと感じる芸術作品に、こちらからまへのめりになってつきあうことにより、その魅力がわかりだして「あったらいいな」という欲望を抱けるようになること。
ウ 芸術作品が投げかけてくる「わからなさ」を拒絶せず、それに向き合うことで、思いもよらぬおもしろさに出くわすことができるのではないかという期待を抱けるようになること。
エ 見た瞬間には「ありえへん」としか思われず、とまどいを覚えた作品でも、その場をはなれずにおもしろさを理解しようとすることで愛着がわき、親しみを抱けるようになること。

問八 — 線部7 「芸術は不親切きわまりないスフィンクス」とあるが、どういうことを言っているのか。次の中から最も適当なものを選び、記号で答えなさい。

ア 芸術とは、あらかじめ目の前にわかりやすい解釈や答えを提示してくれるような存在ではないということ。

イ 芸術とは、受け取る側と提供する側の強い信頼関係なしに何かを与えてくれる存在ではないということ。

ウ 芸術とは、こちらがどんなに理解したいと思っても、難解さでそれを拒み立ち^{こば}はだかる存在だということ。

エ 芸術とは、鑑賞する側がおもしろいと感じて先に進めるかどうかを常に試^{ため}してくる存在だということ。

問九 — 線部8 「芸術はエンタメ世界とは異なる、別種のちょっと目がはなせないワンダーランド」とあるが、「芸術」のおもしろさが、「エンタメ」とは「別種の」ものであると言えるのはなぜか。「エンタメ」と「芸術」の違いが明確になるように、解答らんの書き出しに続けて、八〇字以上、一〇〇字以内で答えなさい。ただし、次の語を必ず使うこと。
すぐに

二〇二五年度 一般入試② 国語解答用紙（1）

受 験 番 号

氏 名

	①
	②
	③
	④
	⑤

	解答用紙2
--	-------

合 計

◆右のらんには何も書かないこと。

一

問 一

問 二

問 三

問 四

問 五

問 六

問 七

問 八

問 九

問 十

問 十					悲しくていやな気持ちになった時、
100	80				

二〇二五年度 一般入試② 国語解答用紙(2)

受 験 番 号

氏 名

	①
	②
	③
	④
	⑤

小 計

◆右のらんには何も書かないこと。

二

問 一	
d	a
e	b
f	c

問 二

問 三

問 四

問 五

問 六

問 七

問 八

問 九					エンタメのおもしろさは、
100	80				

二〇二五年度 一般入試② 国語解答用紙 (1)

受 験 番 号

氏 名

	①
	②
	③
	④
	⑤

◆右のらんには何も書かないこと。

	解答用紙2
--	-------

合 計

問 一
イ

問 二
エ

問 三
ウ

問 四
ア

問 五
イ

問 六
エ

問 七
エ

問 八
イ

問 九
ウ

問 十
ア

問 十					悲しくていやな気持ちになった時、
伝	く	ん	か	暴	
え	て	な	り	力	
る	言	に	な	で	
努	葉	わ	の	は	
力	や	か	で	何	
を	自	っ	、	も	
し	分	て	自	解	
よ	の	も	分	決	
う	好	ら	に	で	
と	き	え	し	き	
い	な	る	か	ず	
う	絵	よ	な	、	
思	を	う	い	疎	
い	通	に	ユ	外	
。	し	、	ニ	感	
	て	暴	一	が	
	気	力	ク	深	
	持	で	さ	ま	
	ち	は	を	る	
100	80	を	な	み	
				は	

二〇二五年度 一般入試② 国語解答用紙(2)

受験番号

氏名

①
②
③
④
⑤

◆右のらんには何も書かないこと。

小計

二

問 一	
d	a
定義	経路
e	b
胸	晩年
f	c
典利士	白状

問 二
ウ

問 三
エ

問 四
ア

問 五
イ

問 六
エ

問 七
ウ

問 八
ア

問 九					エンタメのおもしろさは、
と	品	の	で	其月	
で	に	お	す	待	
し	前	も	ぐ	ど	
か	め	し	に	お	
味	め	ろ	味	り	
わ	り	さ	わ	の	
う	に	は	う	サ	
こ	な	、	こ	ー	
と	っ	よ	と	ビ	
が	て	く	が	ス	
で	レ	わ	で	が	
き	っ	か	き	お	
な	く	ら	る	膳	
い	り	な	の	立	
も	と	い	に	て	
の	何	と	対	さ	
だ	き	感	し	れ	
か	合	じ	、	る	
ら	う	る	芸	こ	
。100	こ80	作	術	と	